荘原たより

2021　VOL. 26

ソニー生命保険株式会社
横浜ライフプランナーセンター第３支社
ライフプランナー　荘 原　健
〒212-0028 横浜市西区みなとみらい２－２－１
横浜ランドマークタワー28F
Tel 045-225-0722 / 携帯 090-3139-8305
E-Mail: KEN_SYOUHARA@sonylife.co.jp

終息すると思っていたコロナウィルスの感染拡大が未だ続くなか、季節は移ろい夏のような日差しが差し込む日も増えてきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。まだまだ制限の多い生活になりますが、柔軟な思考をもち、今できることに挑んで行きたい思います。また１年、心新たに努力して参ります。１日も早く平穏な日常が戻りますように・・・。

渡良瀬遊水地で歴史を学ぶ

広大な遊水地にある谷中湖はハート型♡
若いカップルの人気スポットにもなっています♡

お会いしたいご契約者を訪ね、3月下旬、茨城県古河市に行って来ました。帰路、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる面積3300ha、日本最大級の渡良瀬遊水地へ。

明治初期、この一帯は3つの河川に囲まれ水害を受けやすい地域でありながら土地が肥沃であったため、人々は周りを堤防で取り囲みこの地で漁業、農業とで生活を営んでいました。

その後、渡良瀬川上流の足尾銅山から鉱毒が発生。銅を採掘するため、木の伐採を繰り返したことにより保水力をなくし、明治23年、29年と下流域は広範囲にわたり、大洪水に見舞われました。

今ではラムサール条約の登録湿地（平成24年）となる程、さまざまな動植物が確認され豊かな生態系が形成されています。
そして、この広大な湿地は洪水を防ぐ重要な役割を果たしています。

※当時の政治家、田中正造（1841年～1913年）が村民と共に反対運動を繰り広げ、大きな社会問題になりました。明治40年（1906年）、この地の谷中村は廃村に追い込まれ、数多くの村民は立ち退きを強いられました。その後、このに遊水地が作られました。
現代の私たちが安心して暮らせるのも、多くの方々の協力と犠牲があったお陰だということを、改めて思い知らされました。

見渡す限りのヨシの原野（湿地帯）
年に一度は野焼きがあるそうです。

ライフプランナーとして大切にしていること

【心・技・体・継】

心のあり方　技術(知識)を深める
体力を維持する　継続する

【わたしのモットー】

難しいことを優しく
優しいことを深く
深いことを楽しく

「三方よし」から「六方よし」へ

三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）という言葉を信条としていた私ですが、ある新聞で「これからは六方よしの時代だ」という記事を目にして、胸にストンと落ちるものがありました。

【六方よし】

① 売り手よし
② 買い手よし
③ 作り手よし
④ 世間よし
⑤ 地球よし
⑥ 未来よし

六方よしでは①売り手よし、②買い手よし、③作り手よし、の三つの信条を土台に、さらに④世間よし、⑤地球よし、⑥未来よし、が加わります。それは作り手が真価を発揮すること、地球が健康な状態にあること、続く世代に借金を負わせないような行動をとることが、私たちが今とるべき行動だという考えです。つまり最近よく耳にするSDGs、人類が地球に永く住むために人々が取り組む課題が加わったということです。（SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは、Sustainable Development Goalsの略で、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す、国際社会共通の17の目標です。）

日本企業もSDGsを積極的に経営に導入するなど、この課題に多様な主体で取り組んでいます。環境問題、貧困問題など遠い未来に残る課題に対し取り組み、それをコストではなく未来への投資ととらえています。一年先を見ればコストしか見えないことも、長い目でみると大きな利益となります。個人においても商品選び、就職先選び、投資先選びの基準として、SDGsへの取り組み方が企業選びに影響してくると言えます。これからは六方よしを信条に、何のためにやるのか主体的に考え、できることから着実に行動し、将来につなげて行きたいと思います。

今すぐできるSDGs

【 生活編 】

- 生鮮食品や残りものは早めに冷凍 。（食品ロス防止）
- マイバッグ持参で買い物をする。
- 詰め替えできるボトルやカップを使う。
- 使わなくなったものは慈善団体などに寄付する。
- 使っていない電気は電源からオフする。
- 環境の取り組みを実施している企業の製品を買う。

【 職場編 】

- ムダな印刷はやめる。
- 職場での差別に声を上げる。
- 通勤方法を考える。
- 社内の冷暖房は省エネにする。

編集後記

この一年を振り返ると、コロナという新たな時代に合わせて変わっていこう！と会社全体が一丸となり挑戦した一年でした。「ソニー生命らしさ」と「質」を維持しながら、非接触（リモート面談・Web上でのお手続き）のサービスを進めたことは、お客様に安心をお届けしたいという思いからでした。この荘原たよりは、こんなときだからこそ少しでもお客様に近い存在でありたいという思いでお送りしています。最後までお付き合いいただきありがとうございました。

給与デジタル払いの動きが加速化

企業が給与を銀行口座を介さずに払う＝「給与のデジタル払い」を実現させるための議論が進んでいます。「給与のデジタル払い」が実現すると「〇〇ペイ」などを運営する資金移動業者が提供するスマートフォンのアプリでデジタルマネーとして給与を受け取り、即座にスマホ決済ができるようになります。生活の基盤である給与がデジタル化されると、ますます社会のキャッシュレス化は加速することが予測されます。しかし現在の給与支払いルールは、労働基準法で「賃金は、通貨で直接労働者にその全額を支払わなければならない」と規定されています。今では当たり前となっている銀行口座への給与振り込みは、法律上では例外として認められています。つまり「給与のデジタル払い」解禁には、法律上の見直しも必要になるということです。

メリット	デメリット（問題点と課題）
・ＡＴＭで現金を引き出す手間や手数料が省ける ・働いてから報酬を受け取る期間が短くなる（非正規労働者の利便性が向上） ・銀行口座開設のハードルが高い外国人労働者の報酬受け取り手段として活用できる	・資金移動業者が経営破綻したときの対応 ・本人確認の正確性 ・ハッキングやセキュリティー不備による不正への対応

さまざまな課題はありますが、ここ数年で買い物は現金⇒電子化・キャッシュレス化が主流になっていることを考えると、将来的には通貨のボーダレス化も予測されるのではないでしょうか。例えば「円で払いますか？ドルで払いますか？」などを選択してスマホをかざす日が来るかもしれません。このような時代の流れの中で金融業界に携わる者として、より敏感に、積極的に情報収集してお客様に提供して行きたいと考えています。

デジタル遺品が相続トラブルを招く！

生活の中で高齢化・デジタル化が進むことで生じる問題がデジタル遺品の問題です。デジタル遺品とは、本人の死亡などでデジタルの環境を通してでしか実態のつかめないものをいいます。

デジタル遺品とは	
パソコン・スマホの中にある個人・会社のデータ	インターネットを介してのみ使えるもの
写真・動画・住所録、仕事の資料　など	ＳＮＳ上の投稿、ネット証券、ネット銀行、ショッピングの有料サイト　など

ここ数年、要介護状態になられたご両親の銀行預金の引き出しに苦労した。というお客様のお話が多くなりました。亡くなった後だけの問題ではなく、日頃から身の回りのデジタル化された物や預貯金については、遺したいもの、遺したくないものを分け、整理整頓を習慣化することが大切だと感じています。そして後見人（任意、法定）制度について、以前勉強会に参加しましたが、改めて見直す必要性を感じています。ご関心のあるかたはお声かけください。

茂林寺　ｉｎ　館林

渡良瀬遊水地を見学した後、30数年前、学生の頃に家族で行った茂林寺へ。群馬県館林市にあるこのお寺はおとぎ話「文福（ぶんぶく）茶釜」の寺として知られています。総門から山門に続く参道では22体の狸像が参拝客を出迎えてくれました。

両脇に様々な表情のタヌキがずらーっとお出迎え！

お土産屋さんでは何体ものタヌキに見つめられます。

その日の到着は既に夕刻。しかも天気は雨。誰一人としていない中、一軒のお土産店が開いていました。薄暗いお店の中を覗くと数百体もある狸の置物が所狭しと並んでいました。その奥には初老の店主の姿。

せっかく来たのだからと思い、見て回ると何故か目が合う狸。私は店主と少しだけ会話を交わした後、躊躇なく買うことにしました。その後、店を出て1つ目の角を曲がるときに、「もしかしたら店主のおじさんがまだ立っているのでは・・・」と思い振り返ると・・・。深々と頭を下げている店主の姿がありました。私も思わずお礼の気持ちを込めて頭を下げました。誰もいない夕刻のお土産屋さん。何かほっとする時間になりました。

「他抜き（たぬき）」は必勝のご利益、分福茶釜からは「福を分ける」故に福徳が得られると云われています。また、狸好きな方には、きっとお気に入りの一体が見つかる場所だと思います！

ちょっといい話

その日は、夜遅くまで出かける用事があり、帰りは一時をまわっていました。雨なのに傘を持っていなかった私は、交差点の信号で「早く変わらないかな」と待っていました。道路には、信号で止まっているトレーラーがいて、「こんな遅くまで働いている人は大変だな」と思いました。

しばらくして信号が変わり、足早に家へと向かっていると、私の横で車のブレーキ音がします。顔をあげてみると、さっきのトレーラーらしき車で、助手席の窓が開いています。

「濡れちゃうでこの傘持って行って！もういらん安い傘だから！」

そう言って透明なビニール傘を差し出してくれます。

正直、びっくりしました。あの交差点から、わざわざぐるっと回って見ず知らずの人のために傘を貸してくれるというのですから。本当にうれしい出来事で、少しの思いやりがこんなにも人を温かな気持ちにさせるのだと改めて思いました。